

令和 2 年 6 月 30 日現在

機関番号：34525

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2016～2019

課題番号：16K12088

研究課題名(和文) 婦人科がんサバイバーへの情報提供システムの構築

研究課題名(英文) Construction of an information provision system for survivors of gynaecological cancer

研究代表者

川西 千恵美 (KAWANISHI, CHIEMI)

関西福祉大学・看護学部・教授

研究者番号：40161335

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,600,000円

研究成果の概要(和文)：研究の目的は、婦人科がんサバイバーがどんな時にどんな情報が必要か明らかにし、その情報提供システムを構築することであった。  
婦人科がんサバイバーに限ったことではないが、病院から離れると患者(人)は、新しい情報を得にくくなる。また受診した施設によって得られる情報は限られてくる。婦人科がんサバイバーや家族の方が、新しい情報を手にいれられるように、婦人科がんサバイバー情報サイト<https://f-cancer-survivor.info/>にまとめて公開した。今後、HPからのアンケート結果を持たなければいけないが、情報提供は単なる今ある知識の提供ではなく、その人個人に合った情報が、今後の生きる力となる。

研究成果の学術的意義や社会的意義

学術的意義は、婦人科がんサバイバーに必要な情報は乏しく、情報提供を単にある知識やデータの伝達でなく、今の状態と治療選択・生活を重視した治療後の生活への納得につながる情報提供が必要であることを明らかにした。  
社会的意義は、情報の提供方法を構築した本研究は、婦人科がんサバイバーや家族の主体性が重要視される今、必要とする重要な情報提供や、今後の生きる力となる情報を得られる一助となると考える。また、婦人科がんサバイバーが、これからも情報を得られるように応援することに寄与する

研究成果の概要(英文)：The purpose of this study is to clarify what type of information survivors of gynaecological cancer needed for seeking a better life. Information that seems necessary for these survivors is beginning to be made public. However, it is important for survivors with cancer and their families to know what information they can trust and which applies to them. In this time, we produce the web site for the gynaecological cancer survivor as a guideline toward better survival. This information site also introduces the research on the side effects of clinical trials and treatments, mainly about lymphedema associated with gynaecological cancer. Our research members believes that this action should not end with the mere provision of knowledge; it should also provide survivors with the information that meets their needs and that will guide their lives in the future.

研究分野：基礎看護学

キーワード：婦人科がんサバイバー 情報 治験 リンパ浮腫 医療用ウイッグ補助金 妊孕性 治療 AYA

## 様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

### 1. 研究開始当初の背景

日本において、乳がんは女性の罹患率一位ということもあって、乳がん患者の情報に関する文献は多数存在している。また認定看護の分野でも乳がん看護は存在している。しかし、婦人科がんサバイバーの情報に関する文献は国内外において少ない状況である。

研究者は乳がん患者の情報提供の研究チームに参加した経験から婦人科がんサバイバーにも関心を寄せていた。在院日数が短くなったことも看護師がサバイバーと深くかかわることができない状況も生まれていることから、情報が不足しているのではないかと考えていた。たとえば治療は施設によって異なる場合があるが、受診病院がそのような手術方法が可能かを調べて受診する人は少ない。また、地域的な問題もあるが、得られた情報と受診できる病院は異なる場合も多い。今は様々な情報が得られる社会となっているが、サバイバーに合ったより生活を重視した信頼性の高い情報を提供できるようにしたいと考えた。

### 2. 研究の目的

本研究は、婦人科がんサバイバーがどのような情報を必要としているのか、婦人科がんサバイバーに対する情報提供を中心としたシステムを構築することを目的とした。

- 1) AYA 世代の婦人科がん患者のリンパ浮腫に関して行われている種類の研究を明確にすることを目的に文献検討をおこなった。
- 2) 婦人科がん患者が経験する苦悩とパートナーへの影響をより明確に理解することを目的として文献検討をおこなった。
- 3) 婦人科がんサバイバー個人にあった情報提供システムを構築することを目的とした。

### 3. 研究の方法

医学中央雑誌 Web 版と Pubmed を用いて、日本国内外の文献検討を行った。キーワードは「婦人科がん」、「情報」、「リンパ浮腫」、「パートナー」とし、あらゆる婦人科がんに関係した情報源を精査した。

また、看護師の婦人科がんサバイバーを対象者にして、情報ニードと情報探求行動の面接調査を行った。

### 4. 研究成果

#### 文献検討

#### 1) AYA 世代のリンパ浮腫に関して

文献検討の結果、世界的に AYA 世代(若い人)が対象の研究が少ないこと、年齢別の検討はほぼされていないこと、年齢が 44 歳までに分類されていること、下肢リンパ浮腫は、若い人にとって見た目でも苦痛を生じる可能性が高く早急に対応する必要があること、高齢者と若い人は情報収集源が異なるので、インターネット等を活用して情報を周知する必要があることが明らかになった。

#### 2) 婦人科がん患者のパートナーの心理状態

文献検討の結果パートナーに関係した研究は非常に少なかった。配偶者(パートナー)が考慮すべき理解または認識としては、妻を夫としてサポートできる、妻の役割の大きさに気づくことができる、周囲からの励ましに気づくことができる、妻の治療過程で起こった苦しみを理解できるようにする等の心理状態が報告されていた。一方、婦人科がんを患った後のパートナー間の関係についてはあまり議論されていない。患者のパートナーが心理的にどのように影響を受けるか、そして彼らの生活の質への影響を明らかにするためのさらなる研究が必要であることがわかった。

#### 3) 婦人科がんサバイバー個人にあった情報提供システム

看護師の婦人科がんサバイバーの情報ニードと情報探求行動をインタビューした結果、最新の情報は定期的に診察を受けている医師から受け取ることがわかった。高齢者はよほど困ったことがない限り、

自分から新しい情報を取りに行くことは少なく、あきらめに近い心理状態にあることがわかった。

また、日本最大の患者体験 5years においては、患者約 8000 名（2020 年 3 月 31 日閲覧）のうち、婦人科がん（子宮体がん患者 391 名、子宮頸がん 621 名、卵巣がん 491 名）の人が登録されていた。診断されたばかりの人を含め、サバイバー同士が様々な疑問を投げかけ情報交換していた。それらは比較的若い世代が多かった。

海外文献と日本の文献、インタビューから特に求めている情報提供のホームページ HP を作成した。婦人科がんサバイバーでなくても誰でも気軽にアクセスできるように公開した。これは、婦人科がんサバイバー情報サイト <https://f-cancer-survivor.info/> である。

これは 1 .役に立つ情報、2 .治験ホームページの案内、3 .研究紹介、主にリンパ浮腫についての研究を簡単にまとめて紹介した。サイト別では、1 .役に立つ情報の 2 ) 抗がん剤等による副作用の中で、i)脱毛、ii)リンパ浮腫、iii)治療と妊娠（妊孕性）等にわけた。脱毛の中には、医療用ウイッグの品質と助成金をまとめたものや、キャンサーネットジャパンなど、を紹介している。助成金がある市町の一覧は大変役にたつと思われる。一方、妊孕性に関する助成金は近年多くの都道府県市町でみられるようになったが一覧になったサイトはまだない。早期に探しやすいサイトが望まれる。また、治療の副作用では、主にリンパ浮腫についての研究を簡単にまとめた研究紹介とした。医療者でない人は手に入りにくいと思われる、医療者が行った研究を必要とする人には手に入れられるように、教育研究機関に簡単にアクセスできるようになればよいと考える。

サバイバーや家族がいつでも、必要としたときに、簡便に使用できる電子媒体を活用できるようにし、問い合わせも作成した。詳細な個人情報なしには安易には回答できないのでサバイバーの情報二ードに合致した紹介を行うにとどめたいと考えている。

また情報に関しては、厚生労働省も『「統合医療」に係る情報発信等推進事業』として、根拠のある情報を読み取るために、「情報の見極め方」も発信していることから読み解く力もがんサバイバーには必要である。

国立がん研究センターがん対策情報センターからは、がん情報提供の冊子や書籍による情報発信もされてきた。「がんの冊子」シリーズは、各種がんの治療や療養の情報を扱う 20~30 ページの小冊子で、34 種類が刊行されている。特に高齢者では紙媒体のニーズは高く、これらの冊子は全国に 436 か所（2020 年 3 月 1 日現在）あるがん診療連携拠点病院等で配布され、毎年 80 万~100 万部が活用されていると報告されている。その八巻氏は、信頼できるがん情報を全国の公共図書館に贈るという文章を週刊医学界新聞に寄稿している。がん情報ギフトプロジェクトは、がんギフトセットの「がんの冊子」（閲覧用冊子約 40 種、配布用冊子 8 種）などが配架用ラックとセットで全国の図書館に寄贈されている。これらは広く一般国民が手に取りやすい状況を増やすことになり今後も期待できる。一方、がん診療連携拠点病院に設置された「がん相談支援センター」は、その病院にかかっていない人も含め、誰でも無料で相談できる窓口であるが、その存在は一般の人には、あまり知られていない。研究者も地域の赤穂新聞に「がん相談支援センター」の活用を投稿したことがある。さらに利用が広がるように周知する必要がある。

今後、婦人科がんサバイバー情報サイト HP からのアンケート結果を持たなければいけないが、情報提供は単なる今ある知識の提供ではなく、その人個人に合った情報が必要となる。納得のいく治療法や生活の質を考えた治療法を選択するには、医療者との信頼関係も重要である。選択できる人とお任せの人がいる中で比較的若年世代は自ら情報を集め選択しようとしていることがわかった。さらにサバイバーを支える家族に対しても、どのような情報が必要かアンケートから得られるようになっているので、今後随時、まとめて提供したいと考えている。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計0件

〔学会発表〕 計2件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 2件）

1. 発表者名 Ayako Nagata , Chiemi Kawanishi , Yoshiyuki Nagaya
2. 発表標題 Lower limb lymphedema after gynecological cancer in adolescents and young adults
3. 学会等名 22nd East Asian Forum of Nursing Scholars (EAFONS) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Yoshiyuki Nagaya, Chiemi Kawanishi, Yumika Fujii.
2. 発表標題 Psychological sychological influence on partners of gynecological cancer patients: A literature review.
3. 学会等名 22nd East Asian Forum of Nursing Scholars (EAFONS) (国際学会)
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

婦人科がんサバイバー情報サイト <a href="https://f-cancer-survivor.info/">https://f-cancer-survivor.info/</a>
--

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	永田 文子  (Nagata Ayako)	千葉大学大学院・看護学研究科・博士後期課程大学院生	

## 6. 研究組織（つづき）

	氏名 (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究 協力者	竹本 翠  (Takemoto Midori)	赤穂市民病院・看護部・がんCNS	